

はじめに

綜研化学グループは、地球環境保全のために、事業活動において地球温暖化防止と資源循環に積極的に取り組む環境経営を進めており、同時に、企業としての社会的責任を担うべく、法令を順守し、内部統制システムを充実させ、社会貢献を行うことなどで、社会の公器にふさわしい企業体質の構築に努めています。

本報告書において、その進捗状況をステークホルダーの皆様にご報告するとともに、自らの反省材料とし、今後の取り組みへの糧としていきたいと考えております。

●対象範囲と期間

本報告書は、綜研化学グループ国内事業拠点（綜研化学、綜研テクニクス、浜岡綜研、狭山綜研）の活動状況を掲載しています。（浜岡綜研および狭山綜研は、2014年4月1日をもって綜研化学に吸収合併いたしました）

実績データ及び取り組み内容は、2013年度（2013年4月1日から2014年3月31日まで）を対象として掲載し、組織・体制などは2014年8月現在のものを掲載しています。

●ガイドライン

本報告書の作成にあたっては、環境省「環境報告ガイドライン2012年度版」を参考にしています。

目次

はじめに	2	環境的側面	16~22
トップメッセージ	3	環境負荷低減のための活動	16
綜研化学グループ		環境中期計画	17
・経営理念・倫理綱領・会社概要	4~5	環境マネジメントシステム	18~19
特集 アジアの生産拠点紹介	6~9	環境配慮型製品	19
社会的側面	10~15	地球温暖化防止	20
お客様・お取引先の皆様とともに	10	化学物質による汚染防止および環境リスクの低減	21
株主・投資家の皆様とともに	11	サイトデータ	22
従業員とともに	12~13	第三者意見	23
地域の皆様とともに	14~15		

トップメッセージ

当社グループは、創業以来受け継がれてきた「技術を通して社会に貢献する」という精神の下、独自技術により開発した革新的製品を提供することで、豊かな社会の実現に参画し貢献できるように努めております。2013年度は、中国・東南アジア市場における既存事業の規模拡大を図るべく中国での生産能力増強投資を実施するとともに、新製品の開発および新規事業の柱としてナノインプリント関連製品の早期立上げに注力してまいりました。

今後もアジア地域を中心に事業拡大を図るなかで、すべてのお客様に対し、安心安定して製品をお使いいただくため、グローバルでの安定的な原料調達の推進や海外拠点の生産能力拡充による製品供給体制の構築に取り組むとともに、「安全はすべての業務において優先する」という基本理念の下、危機管理体制を強化し、

地域の皆様への安心と従業員の安全確保に向けて、グループ全体での取り組みを継続的に推進してまいりました。2013年度は、当社の工場・研究所において過去に発生した事象事例を分析し、再発防止と予防および従業員の安全意識向上を目的とした「綜研化学の化学工場・研究所の安全ガイド」を発行しております。

また、国内においては、善良なる企業市民として、近隣地域の清掃ボランティアや地域イベントに参加するとともに、災害発生時の対応として、地元消防団への協力や生活・防火用水の提供など、地域の皆様との共生にも努めております。そして、すべての従業員が働く喜びを実現するために、ワークライフバランス向上のための諸施策の実施、健康づくりセミナーの開催およびカウンセリング体制の整備などにも取り組んでおります。

さらに、これまでの報告書では国内での取り組みをご紹介してまいりましたが、今回の特集では安全・環境問題など関心が高まる中国での当社グループの活動として「綜研化学（蘇州）有限公司」の取り組みについてもご紹介しております。

2014年度は新連結中期経営計画「New Value 2016」に従い、お客様に対して新たな価値創造と、環境変化に強い事業構造への転換を目指し、中国・東南アジアでの事業拡大と新たな製品・サービスの創出を進めてまいります。これに伴い2014年4月には営業から生産まで一貫した事業体制を構築するため国内生産子会社2社を吸収合併するとともに、研究開発体制強化のための研究開発センター設置など大幅な組織改編を行いました。当社グループの総力を結集して目標達成に向けて邁進するとともに、社会の公器としてその責任を果たし、皆様からのご期待と信頼にお応えできるよう、なお一層努力してまいりますので、今後とも、ご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
逢坂 紀行

経営理念

1. 私たちは常に誠実であるとともに、創造と工夫に情熱と責任を持って挑戦し続けます。
2. 地球環境の保全を指向しつつ、社会に役立つ革新的製品を提供します。
3. お客様には心からの満足を、株主の方々には共感を、そして私たちは働く喜びを実現していくことに最善を尽くします。

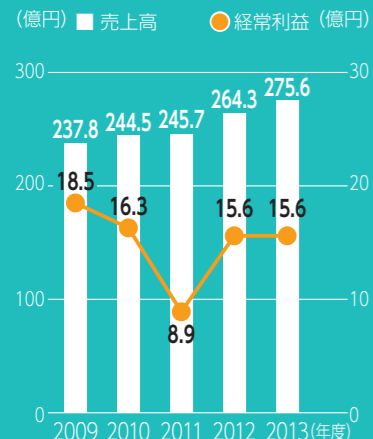
倫理綱領

1. 社員一人一人の自律性を深め、倫理性の高い優れた企業をめざす。
2. 法令等を遵守し社会的規範や良識に基づいて行動する。
3. すべての事業活動において自由競争のルールに従い、公正な取引を行う。
4. 適時適切な企業情報を開示し、高い信頼性と透明性の保持に努める。
5. あらゆる反社会的勢力及び団体からの不法・不当な要求には応じず、一切の関わりを持たない。
6. 海外においても、その土地の文化や慣習を尊重する。
7. お互いの人格・人権を尊重し、不当な差別のない職場環境を確保する。
8. 地球環境保全と安全確保に努め、豊かで住みやすい社会づくりに貢献する。

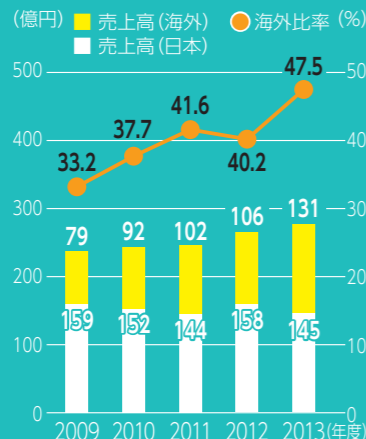
会社概要

商号 綜研化学株式会社
Soken Chemical & Engineering Co.,Ltd.
創立 1948年9月2日
資本金 33億6,156万円
株式 東京証券取引所
JASDAQ(スタンダード)(コードNo.4972)

売上高・経常利益



海外売上高比率推移



綜研化学グループ

綜研化学グループ
総従業員数
1,076名
(2014年3月31日現在)

盤錦遼河綜研化学



生産・販売品目
熱媒体・熱媒ボイラー
従業員数
112名

綜研化学(蘇州)



生産・販売品目 従業員数
機能性高分子 126名
有機微粒子

綜研高新材料(南京)



生産・販売品目 従業員数
アクリル系粘着剤 48名
機能性高分子

寧波綜研化学



生産・販売品目
アクリル系粘着剤
粘着テープ
従業員数
330名

綜研化学アジア



生産・販売品目 従業員数
アクリル系粘着剤 59名
粘着テープ

綜研化学シンガポール



販売品目
アクリル系粘着剤
粘着テープ
従業員数
6名

狭山綜研*



生産品目
アクリル系粘着剤
機能性高分子
有機微粒子
従業員数
42名

綜研化学



販売品目
アクリル系粘着剤
機能性高分子
有機微粒子
粘着テープ
ナノインプリント
従業員数
251名

綜研テクニクス

事業・製品
熱媒体・熱媒ボイラー
プラントエンジニアリング
メンテナンス
従業員数
37名

浜岡綜研*



生産品目
アクリル系粘着剤
機能性高分子
従業員数
65名

*浜岡綜研および狭山綜研は、2014年4月1日をもって綜研化学に吸収合併いたしました。

アジアの生産拠点紹介
綜研化学 (蘇州)



現地幹部が中核を支える会社

綜研化学(蘇州)は2002年5月に創立され、今年13年目を迎えます。

綜研化学グループの主力工場のひとつとして、主に中国企業向けに機能性高分子、有機微粒子を生産しています。

120名を超える従業員のうち日本人は2名のみ。当初は日本人スタッフが指揮をとっていましたが、現地法人としては珍しく「日本的な企業文化の創出」で従業員の満足度を高めていった結果、設立当初の現地従業員が優秀な幹部へと成長し、現在、部門長として会社の中核で活躍しています。



事務所のエントランス 電光板に訪問者歓迎のメッセージが流れます。



総経理
崔 英

国籍を問わず目標を共有する

現地化は経営の効率を上げ、利益最大化のための有効な手段であると認識し、当社は設立当時からこれを着々と進めてきました。中国市場向けの現地販売が増えている中、業績を伸ばすために現地営業を強化する必要がありますが、当社では10年前から育成してきた現地販売部隊が大きく活躍してくれています。原価削減のための歩留りアップにしても、現地従業員の長期勤続による習熟度や誠実さに頼る部分が多く、現地従業員たちの活躍によって、日本でも達成困難であった歩留りを実現しています。業績だけでなく、現地における企業リスク低減のためにも現地化は重要ですが、それには現地従業員だけに焦点を絞るのではなく、出向者・出張者を含め現地に開く日本人にも目を向けておく必要があります。心で動くのが人間の本質なので、国籍を問わず目標の共有が大切であると思い、現地従業員と日本人従業員とのコミュニケーションと相互理解に日々努めています。



蘇州工業園區の模範工場として

急速な経済成長を遂げている中国では、環境問題に関心が高まっており、近年国家レベルの政策が掲げられています。工場に対する「安全・環境」の要求レベルも高く、綜研化学(蘇州)では「安全・環境」整備に前向きに取り組んでいます。

蘇州工業園區では安全生産がテーマのイベントが多く開催されており、綜研化学(蘇州)はこれらのイベントに積極的に参加しています。

中でも化学品事故緊急訓練は非常に重要で、蘇州工業園區安全生産委員会主催により区内の化学メーカーが合同で訓練を行います。訓練は、インフラが揃い安全生産が徹底していると評価された企業で行われ、綜研化学(蘇州)も演習地区に指定されています。



整然とした構内は、安全第一が徹底されています。

綜研化学(蘇州)の工場敷地で行われた化学品事故緊急訓練



綜研化学(蘇州)の緊急マニュアルに則って訓練が行われました。



工場長
塩畑 俊男

無事故、無災害の継続が信用、信頼に繋がる

中国では「安全・環境」について工場に対し厳しい規制を定めています。

化学工場としてこの厳しい規制の中、率先して「安全・環境」に取り組み、無事故、無災害を継続することが蘇州工業園區の安全リーダーとしての信用、信頼に繋がると考えます。

そのための一つの活動として、臭気ゼロ、粉じんゼロを目標に改善を行っております。また、蘇州では「安全・環境」への取り組みとしてユニークな勉強会を行っています。「安全・環境」の勉強会後、習得度合を確認するため、それぞれの部署から代表者を選出し早押しクイズを行い、楽しみながら「安全・環境」の知識を深めています。(部署の面子が掛かっているほか、上位のチームには賞品が出るため皆真剣です)

これらの活動を推進し、従業員一丸となり「安全・環境」に取り組み、綜研化学グループを代表する工場になることを目指しています。



「緑豊かな化学工場」を目指しています

構内は整理・整頓・清掃が行き届いており、水と緑に溢れた蘇州にふさわしく「緑豊かな化学工場」を目指す従業員たちにより緑化運動が盛んです。

緑を大切にしたいという思いとともに、働く環境をより良くしようという企業意識のもと、全社で取り組んでいる課題です。全従業員参加で行った植樹により桜、ビワ、ザクロ、モクレンなどが順次満開となり、構内を明るく和やかにしています。

自分たちの力で工場に緑を

植樹活動を企画した目的は、従業員たちが自ら汗を流し、自分たちの力で工場敷地内の環境を改善していくことを体感していただくと同時に、綜研化学グループの一員であるという誇りを持ってもらうためでした。

結果的に、多くの人が積極的に参加し、緑を植え、緑を愛し、緑を守るという意識が社内に形成され、緑豊かな工場を目指す会社の目標がより近くなってきたと思っています。



総管理部部长助理
程立群



5Sの行き届いた研究所内



従業員全員での植樹風景



中庭の花々が仕事の疲れを癒します。



社会貢献活動

蘇州工業園区管理委員会主導の惠民富民キャンペーン(市民の生活レベルを上げるためのキャンペーン)への協賛や災害時の義援金など、近隣を中心とした社会への貢献活動も行っています。

労働組合も社会貢献に 助力しています

当社は、従業員の生活安定、各種トラブルの調停及び權益の保護などの実績により、2014年のAA級労働保障信用会社に選ばれました。

良い労使関係は企業発展だけでなく、社会貢献、社会安定の原動力にもなっていると思います。

工会(労働組合)は会社主導の社会貢献活動にも積極的に参加し、企業のイメージアップと従業員の意識向上に努めてまいります。



設備部班長・工会主席
姜官陽

できることから行う社会貢献を

会社の社会的責任を全社に周知する上で、総務部門従業員の社会的責任に対する意識向上と取り組みが重要であると思っています。私は会社の社会貢献活動に参加することによって、「one for all, all for one」の意味を実感しました。

寄付金、日常のボランティアなどを通じて困った人を助けることは、社会的責任という文言を超えて素晴らしいことだと思います。そして、その行為が社会責任を果たすことになるのだという思いを持ち、今後も自分たちができることを継続していきます。



総務人事課課長
喬浣漪



惠民富民キャンペーンの募金や中国「汶川」「雅安」大震災の義援金募集に協賛しました。

ちょっといい話



困った人を助け、感謝されるのは、いつの場合も気持ち良いことです。ある日、工場で使う部品の調達のため町に出た従業員は、車のタイヤがパンクして困っていた人を見つけ、本人に替わりタイヤの交換をしました。その手際があまりにもよかったので、周りから拍手喝采を浴びていました。

社会的側面

お客様・お取引先の皆様とともに

綜研化学グループは、ケミカルズ製品の研究・開発のノウハウと、製品化・量産化するためのエンジニアリングの技術を活かし、お客様のニーズに高いレベルで迅速に対応することを目指しています。また、「お客様との信頼関係を大切にす」ことを信念とし、お客様にとっての「一番身近な存在」であり続けたいと考えています。

品質方針

- 1 顧客満足の絶えざる向上を目指し、品質マネジメントシステムの実践とその有効性を継続的に点検し、顧客の期待に応える魅力ある製品とサービスを提供します。
- 2 法令・規制要求事項の遵守は当然のこととして、顧客の品質に対する要求事項を満たすことが、顧客からの信頼を確保する上で重要であるとの認識を社内に徹底します。
- 3 品質方針と整合した品質目標を設定し、その見直しを含めた目標管理の仕組みを作り、実践します。

スローガン
「高品質で拓け未来を！」

HPの製品ページをリニューアル

お客様のニーズに迅速にお応えするとともに、綜研化学の製品をもっと知っていただくため、2013年に製品ページをリニューアルいたしました。



お取引先様の声

弊社は化学品・石油製品・合成樹脂・建材を取扱う三菱系の商社であり、綜研化学様とは国内外においてお取引させていただいております。日頃、我々が使用するスマートフォン、タブレット端末、パソコンなどに触れるたびに、身の回りのものには深く綜研化学様の製品が関係していると、改めて社会貢献性の高さを実感しております。今後、綜研化学様が更なるグローバル展開を進める中で、弊社もビジネスパートナーとして、綜研化学様とともに環境保全を指向した革新的な製品を創出し、ともに社会貢献性を高めていきたいと考えております。



明和産業株式会社
常務取締役
化学品・石油製品本部長
松井 淳一様

win-winのパートナーシップを目指して

お客様の要求事項を満たすことが、信頼を確保する上で大切なことであるとの認識から、原材料・資材の調達に関しても、あらゆる視点からお客様の要望に見合ったものを選定しております。お取引先の皆様には、常日頃より諸々の要望に加え「地球環境の保全を指向しつつ、社会に役立つ革新的な製品を提供します」との当社経営理念をご理解いただくとともに、環境負荷が少なくお客様に安心して使っていただける高品質な製品を生み出すために、「綜研化学グリーン調達・品質保証指針」に基づき原材料・資材を供給いただいております。深く感謝しております。お取引先の皆様と相互の持続的発展を目指した取り組みを行うことにより、win-winのパートナーシップを目指していきます。



購買部長
榎本 稔

株主・投資家の皆様とともに

綜研化学グループは、経営理念に掲げる「株主の方々には共感を」を実現していくために、適時的確な企業情報を開示し、高い信頼性と透明性の保持に努めています。

IR活動

経営の透明性を高め、企業の説明責任を果たすため、各種IRツールを通じて、株主・投資家の皆様へ情報をお届けしています。

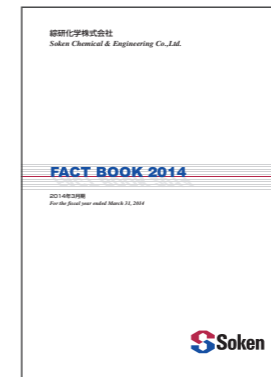
■ ビジネスレポート

中間、期末の年2回、事業活動の概況をお届けします。



■ FACTBOOK

投資分析に必要な情報を掲載しています。

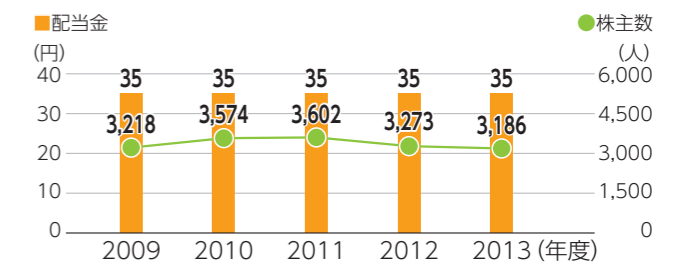


利益配分に関する基本方針

当社は株主に対する利益還元を重要政策の一つと考え、事業拡大や技術革新に対応した設備投資および研究開発投資を行い、海外展開による市場拡大と新製品・新技術の開発・量産化に努め、会社の競争力を維持・強化し、収益力の向上、財務体質の強化を図りながら、配当水準の向上と安定化に努めることを基本方針としております。

2013年度の利益配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、安定的な配当を行うことが適切と考え、前年度配当と同額の1株当たり35円といたしました。

■ 配当金と株主数の推移



第66回定時株主総会

約90名の株主様にご出席いただきました。

株主懇談会

毎年株主総会後に、当社技術や製品を身近に感じていただけるよう、株主の皆様との懇談会を行い、ご質問にもその場でお答えしています。今回の懇談会では、新規事業の紹介に加え、綜研の基幹技術から展開される製品・サービスと、日常生活の中での関わりなどをポスターで紹介しました。



決算説明会

中間、期末の決算発表後、投資家の皆様と証券アナリストを中心とした説明会を開催し、事業活動の概況と見通しを説明しています。



従業員とともに

経営理念に定める「働く喜び」の実現を達成するために、「働きやすい」と実感できる職場を目指し、さまざまな制度、取り組みを設けています。

● 従業員の心と身体を健康を支える体制作り

▶ 健康セミナーと産業医による講演会

従業員が持つ力を職場で発揮するためには、健康の維持が欠かせません。当社では、各事業所において、東京薬業健康保険組合健康開発センターの指導による「健康セミナー」を開催し、健康診断の目的や食事、運動などの生活習慣を見直すことによる健康維持について考える機会を設けるとともに、産業医による定期的な講演会を通して、日頃の健康管理を呼びかけています。



狭山健康セミナー



本社産業医
めじろ内科
クリニック
久野伸夫先生の
講演会

▶ ストレスチェックと国内全事業所でのカウンセリング

身体と共に心のケアも重要な要素です。全従業員を対象に年に1回アンケートによる「ストレスチェック」を行い、自身のストレス把握の一助としています。また、全事業所に専門のカウンセラーに相談できる体制を設け、心の健康をサポートしています。

コミュニケーションの 苦手な方にも

カウンセリングでは具体的な悩みごとの相談以外に、感情のコントロールが上手くできなくて困っている方や、周りの人とコミュニケーションをとるのが苦手な方に、感情のコントロールの仕方やコミュニケーションの技術や方法を学んでいただくこともできます。どんなことでも気軽に相談して欲しいと思います。



産業カウンセラー
始澤 三恵子先生

▶ 安全な職場への取り組み

化学工場に勤務する従業員が事故によるリスクを負わないようにするため、行動例(してはいけないこと)をまとめた『化学工場・研究所の安全ガイド』の発行や、リスクアセスメント勉強会を開催し、安全操業の意識を高める工夫をしています。



化学工場・研究所の
安全ガイド



リスクアセスメント勉強会

▶ 従業員の相互親睦「綜和会」

従業員の親睦を図るための行事やクラブ活動を行う「綜和会」は、活動資金を会社が支援しています。2013年度は創立65周年を記念した日帰りイベントが富士急ハイランドで行われ、国内3事業所から従業員や家族203名が参加しました。参加者全員による景品付のゲームの後、乗り物や温泉を楽しみました。



富士急ハイランド 日帰りイベント

● 仕事と家庭生活の充実を支援する制度

次世代育成支援のための行動計画

(第2期) 2013年11月1日～2015年10月31日

目標1. 効率的な仕事、付加価値の高い仕事への改善→総労働時間を削減

目標2. 子を持つ、または要介護者を持つ従業員が働きやすい職場環境の整備

最終到達目標 総労働時間 年1,800時間

ワークライフバランスの向上を目指し、2011年8月から取り組んでいる次世代育成支援のための行動計画の第2期が2013年11月からスタートしました。

第2期の目標は第1期から継続していますが、第1期の取り組みの結果、定時退場日や看護休暇などの制度の定着が図れてきたので、取り組み内容は1期目より発展したものととしています。また、取り組みの最終到達目標として“総労働時間年1,800時間”を掲げ、第2期もこれを目指して取り組んでいます。

第2期の目標1における働く時間削減のために、導入済みのWeb就業システムを利用して、各自が自分の働いた時間や休暇取得状況をタイムリーに確認ができるように進めています。また、これまでの取り組みで定着してきた月2回の定時退場日は回数を増やすことや退場時刻を17:30へ繰り上げることに取り組みます。

目標2を実現するために、改定した育児休業規程や介護休業規程の社内報による周知を引き続き行い、育児介護と仕事の両立を図る従業員の相談窓口の設置、両立支援のためのセミナーなどによる情報提供にも取り組んでいきます。

この取り組みを通じて、すべての従業員が十分に能力を発揮できるように、働きやすい職場環境をつくることで、経営理念に定める「働く喜びの実現」を目指します。



育児休業取得者の声

妊娠には有機溶剤を取り扱う検査業務から外してもらい、職場の仲間の協力のおかげで仕事を続けることができました。出産後は育児休業を取らせていただき、1年間仕事から離れてじっくり我が子と向き合うことができました。初めての子育てで悩んだり迷ったりすることばかりで仕事とは違う大変さを知りました。子育てを通して少し自分も成長できたような気が



樹脂生産部品質管理G
浜岡検査T
池田 有希子

がします。職場に復帰してからは時短勤務にさせていただき、職場の方や家族の理解と協力があるからこそ仕事ができると実感しています。これからも働きながら育児のできる環境に感謝し、仕事に励んでいこうと思います。

看護休暇取得者の声

2013年10月に第一子が生まれ、今年4月から平日は保育園に預けています。家内の育児休業中は子供も風邪をひいたりすることは少なかったのですが、保育園に預けるようになってからはよく風邪をひいたり熱を出すようになりました。そんなときは家内と交代で会社を休んで看病していますが、綜研化学には看護休暇制度があり、有給とは別に休暇を取得できるため非常に助かっています。



経営管理部経営企画G
坂本 淳

また、制度だけではなく、イクメンの先輩方のおかげで働く男性の子育てに対する理解が得られ、休暇取得しやすい環境が整っていることもありがたいサポートになっています。

地域の皆様とともに

綜研化学グループは、事業を通じた社会貢献と事業所が所在する地域との積極的な交流に努めています。

緊急時の地域支援

狭山事業所では、近隣の皆様が大規模地震・大型台風・竜巻等の天災により住居損害を受け避難するケースが生じた場合、建物の一部を避難場所としてご利用いただけます(毛布などもご用意しています)。また、構内の上水タンクの水140トンを飲料水として提供することが可能です。

浜岡事業所では、地元御前崎市および近隣の牧之原市の消防団協力事業所認定を受けています。緊急時、消防団所属の従業員は、地元消防活動を優先して行います。

地域交流&ボランティア

地域交流を兼ねて、地域イベント、ボランティアに参加しています。



静岡県ドラゴンボート大会御前崎市長杯



掛川市長杯争奪卓球大会



狭山市バドミントン大会



御前崎駅伝



クリーンボランティアに参加しています

狭山市では毎年8月に「狭山市入間川七夕まつり」が開催され、狭山事業所からはクリーンボランティアとして、まつり会場の美化に協力しています。毎年酷暑の作業で大変ですが、楽しみは清掃しながら当社の竹飾りを探すことです。メイン通りがあると喜び、人通りが少ない場所だとガッカリしたり…さて、今年は何の辺りだったでしょうか？



総務人事部狭山総務G
笹田 和伸



入間川七夕まつりクリーンボランティア



インターンシップ生の受入

社会貢献活動の一環として、国内・海外からのインターンシップ生を積極的に受け入れています。2013年度は、計4名の研修生を受け入れました。

インターンシップ生の声

今回、プロジェクト推進室で2週間のインターンシップに参加しました。そこではPEDOTのデバイス応用として、有機薄膜太陽電池と色素増感型太陽電池の作製および性能評価を行いました。また、PEDOTを塗膜する手法についても実習いたしました。インターンシップの目的は綜研化学との共同研究でしたが、企業での就業体験もでき、将来を考えるうえで大変実りあるインターンシップとなりました。今回学び得た知識と経験を、今後の研究に活かしたいと思います。



2013年度のインターン
電気通信大学大学院
高藤 寿人さん

インターンシップ生の声

今回の綜研化学のインターンシップを通して色々なことを学びました。初めての職場経験が綜研化学で良かったと思います。私は日本語があまり得意ではないので心配しましたが、みなさんに声をかけていただいたり、食事に誘っていただいたりしたので楽しく過ごすことができました。まだ韓国の企業で仕事をすることがないので日本の企業が韓国と比べてどのようになっているかがよくわかりません。しかし、皆さんが誰かに仕事をさせられて働いているのではなく、責任を持って自分の仕事に一生懸命に向かう姿はとても見習いたいことだと思いました。韓国に戻っても今回のインターンシップの経験が将来の就職活動や人生設計にも役立つと思います。



2013年度のインターン
韓国漢陽大学
Lee Myoung Woo(イ・ミョンウー)さん
(前列中央)

地域住民の皆さまにご安心いただくために

緊急・災害時の対策として、各事業所で自衛消防隊を組織しています。防災訓練では地元消防署の監修のもと、避難経路および初期消火手順の確認と、実際の消化訓練も行っています。工場のある狭山事業所と浜岡事業所は年2回(春・秋)実施しています。

狭山事業所防災訓練



浜岡事業所防災訓練



環境的側面

環境負荷低減のための活動

綜研化学グループは「地球環境の保全を指向しつつ、社会に役立つ革新的製品を提供します」という経営理念を掲げ、自主的、積極的に環境への配慮を考えた企業活動を行っています。

環境方針

綜研化学グループは、独創的な研究開発・技術を追求する研究開発型企業として、粘着剤、微粉体、特殊機能材等の高機能ケミカルズ、それを応用した加工製品および装置関連事業等の事業領域で、環境保護を指向した製品を開発し、生産・販売活動に努めます。社員一人ひとりが地球環境に配慮した企業活動を行い、環境保全に努め、社会に貢献します。

基本方針

- 1 全員参加のもとに環境保全活動を進め、継続的な改善と環境汚染の予防に努めます。
- 2 関連する法令等の要求事項を順守するとともに、高い倫理観と良識をもって社会的責任を果たします。

行動指針

- 1 事業活動や製品が環境に与える影響を評価し、環境改善の目的および目標の設定と、見直しを含め環境改善を進めます。
- 2 省エネルギー活動を主体とした「地球温暖化防止」と3R(リデュース、リユース、リサイクル)による「資源の循環」に取り組みます。
- 3 化学物質による汚染の防止など、環境リスクの低減に努めます。
- 4 環境にやさしい製品の開発に努めます。

2008年6月25日
綜研化学株式会社

環境中期計画

2005年に策定した第一次環境中期計画以来、環境保全活動を推進しています。東日本大震災の影響が色濃く残る2012年には、それまでの結果をもとに第三次環境中期計画を三カ年計画として策定しました。2013年度は、その二年目にあたります。

第三次環境中期計画

	2014年度中期目標	2013年度目標	2013年度実績	評価
環境配慮型製品 売上高比率向上の推進	売上高比率 25%	売上高比率 20.6%	13.1%	×
地球温暖化防止の推進				
(1)粘着剤製品・機能材製品	環境効率* 8.45	環境効率 8.00	9.40	○
(2)微粉体製品	環境効率 0.27	環境効率 0.25	0.30	○
(3)加工製品	環境効率 0.47	環境効率 0.44	0.73	○
(4)非生産部門	CO ₂ 排出量 1,420t	CO ₂ 排出量 1,473t	1,860t	×
化学物質による汚染防止 および環境リスクの低減	①臭気・揮発性有機化合物(VOC)および粉じん対策の実施 ②騒音、振動発生源対策の実施	・臭気・VOCの排出抑制 ・騒音、振動リスクの削減	・微粉体生産工場の騒音低減対策(狭山) ・排水社内処理可否の検討実施(狭山) ・粘着剤生産工場の省エネルギー対策(浜岡)など	○

* 環境効率

$$\text{環境効率} = \frac{\text{生産高} \cdots \text{グループ内生産量: (単位 t)}}{\text{生産時の環境負荷} \cdots \text{CO}_2\text{排出量: (単位 tCO}_2\text{)}}$$
 評価: ○達成 ×未達成

第三次環境中期計画の重要課題3項目のうち「地球温暖化防止の推進」の環境効率、「化学物質による汚染防止および環境リスクの低減」は各施策の実施により2013年度の目標を達成できました。その反面で「環境配慮型製品売上高比率向上の推進」、「地球温暖化防止の推進」の非生産部門のCO₂排出量は未達成となりました。

マテリアルフロー

マテリアルフローは、事業活動に対する資源やエネルギーの投入量 (INPUT)、製品の生産量と環境負荷物質の排出量 (OUTPUT) の関係を表したものです。綜研化学グループの環境負荷の全体像を示しており、これらの結果をふまえ、より一層の資源の有効活用を進めてまいります。



環境マネジメントシステム

綜研化学グループの環境マネジメントシステムへの取り組みは、2002年3月の狭山サイトの認証取得から始まり、すでに12年が経過しました。それぞれの活動単位である本社・狭山・浜岡の各サイトでは環境負荷低減を目的とした活動に取り組んでいます。

統括環境管理責任者より

2013年度はサイトの立地に応じた独自の活動を推進した年でした。狭山サイトは作業環境向上のための建物外壁の遮熱に加え、脱臭装置の最適運用や騒音低減等の地域環境に配慮した取り組みに注力しました。量産工場である浜岡サイトは昨年導入した太陽光発電を本格活用し、また洗浄溶剤リサイクル、容器リユースによる廃棄物削減を継続しています。

2014年度は、中計最終年として環境保全活動を目標どおり進め、環境負荷低減に向けた次のシナリオを創ってまいります。

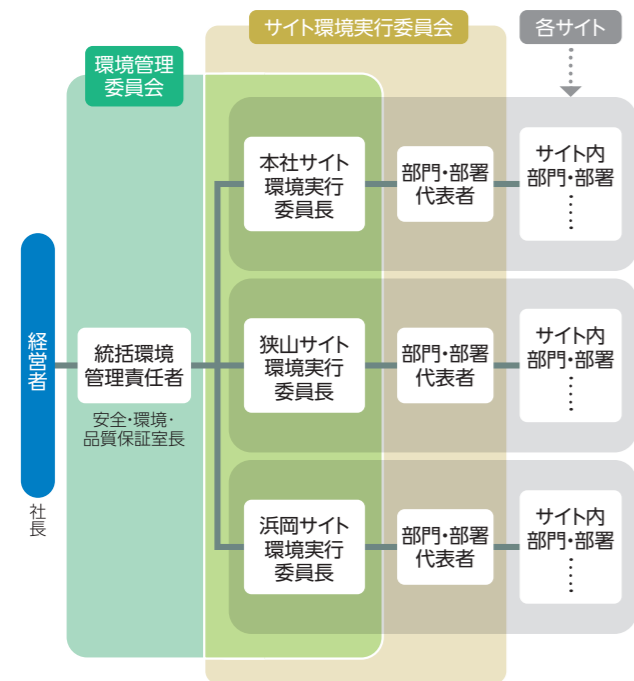


安全・環境・品質保証室長
(統括環境管理責任者)
山田 英雄

環境マネジメントシステムの推進体制

綜研化学グループの国内事業拠点の本社、狭山、浜岡サイトを活動単位として、それぞれの特性に応じた独自の活動を展開しています。環境マネジメントシステム経営者の社長から任命された統括環境管理責任者がシステム全体を管理し、統括環境管理責任者と各サイトの代表者であるサイト環境実行委員長で構成する環境管理委員会で活動全体の方向性を定め、サイト相互の情報交換を図っています。各サイトでは、サイト環境実行委員長とサイト内の部門・部署の代表者で構成されるサイト環境実行委員会で決定事項の周知とサイト内の情報共有を行い、具体的なサイトの活動内容を決定しています。

環境マネジメントシステム推進体制



著しい環境側面*1の管理状況

著しい環境側面として特定している項目は、狭山サイト4件、浜岡サイト1件の計5件です。これらは管理の手順を定めて運用しています。

著しい環境側面

管理項目	管理状況
1 揮発性有機化合物の放出	粘着剤・機能材製品の製造時に反応設備から排出される揮発性有機化合物の蒸気の捕集設備を設置し、大気中への拡散防止を図っています。
2 微粉体製造時の廃水排出	微粉体製品製造に伴う廃水を一時保管するタンクのオーバーフロー防止のため、タンクの操作手順を定めて運用管理しています。
3 加工製品製造時の臭気	加工製品製造時に揮発性有機化合物が排出されます。この臭気を燃焼処理装置で適切に処理するための管理手順を定め、運用しています。
4 微粉体製造時の騒音	微粉体製品製造時に運転するコンプレッサーから発生する騒音について、外部への影響を低減するとともに日常的な監視を継続しています。
浜岡サイト 1 引火性液体の静電気放電	使用する原料の多くは引火性液体です。静電気による火災発生を防止するため静電気放電の予防手順を定めて管理運用しています。

*1 著しい環境側面
事業活動で生じる環境に影響を与える原因となるもの、原因となる可能性があるものを「環境側面」といいます。「著しい環境側面」とは、環境側面の中で特に影響が大きいと綜研化学グループで判断したものを指します。

環境苦情*2

(総発生件数 1件：狭山サイト)

設備完成時の行政確認の際、別件で圧力容器自主検査結果記録の管理、特定化学物質作業主任者の選任と作業場の掲示の指導がありました。いずれも法令の認識不足に起因しており、チェック体制見直しと担当者への認識付与で是正を図りました。本件の水平展開で、浜岡サイトでも同様の不備が確認されたため、環境不適合(後述)として対応しました。

*2 環境苦情

近隣住民の方、お客様、お取引先様、行政等からの環境に関する指摘を指します。環境苦情が発生した場合、その原因を明らかにし、再発を防ぐための対策を実施しています。

環境不適合*3

(総発生件数 2件：狭山サイト、浜岡サイト各1件)

狭山サイト発生分は微粉体製品製造時の特定作業における法令要求事項の対応に関わるもので、実施と手順の明確化、担当者の再教育で是正しています。浜岡サイト発生分は、狭山サイト発生苦情の水平展開で判明したものです。本件も同様の対策で再発防止を図りました。

*3 環境不適合

環境マネジメントシステムで定めたルールに違反していることを指します。環境不適合が発生した場合も、環境苦情と同様に原因究明、再発防止対策を実施しています。

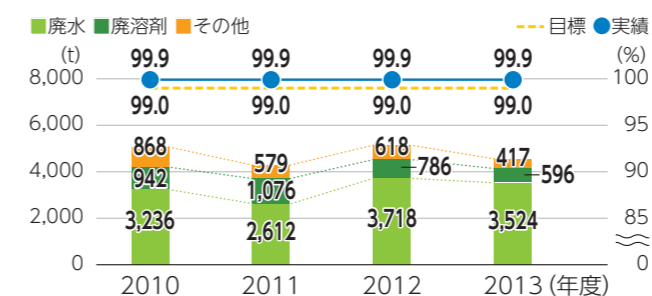
廃棄物削減・資源循環の推進

2009年度に達成したゼロエミッション*4を2013年度も継続しています。廃棄物の総発生量は4,537tで、対前年度比11%減でした。内訳では廃水、廃溶剤とも減少しており、水の使用量が少ない微粉体製品の開発、洗浄溶剤の蒸留回収等の対策の効果と考えています。今後もゼロエミッション継続と廃棄物の総発生量の削減に取り組めます。

*4 ゼロエミッション

綜研化学グループでは、「事業活動で生じた全廃棄物のうち、最終的に埋立処分となる廃棄物量を1%以下とすること」と定めています。

廃棄物量と再資源化率



環境配慮型製品

綜研化学グループでは、環境配慮型製品*の開発と提供に取り組んでいます。2013年度は全製品中の売上高比率20.6%を目標に活動しました。

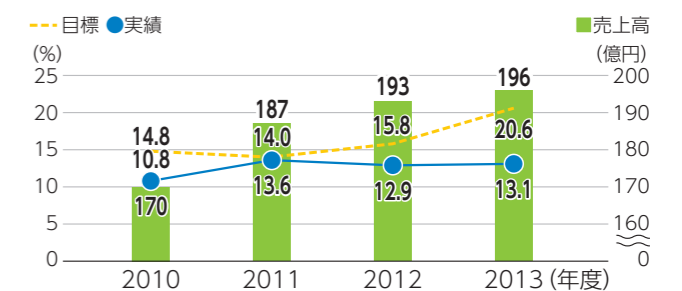
2013年度の売上高比率は13.1%とほぼ昨年並みで、目標は未達でしたが、粘着剤、機能材製品のトルエン不用品が好調でした。今後、既存の環境配慮型製品に加え、ナノインプリント用モールド「フレフィーモ®」をはじめとした新しい環境配慮型製品の開発を進め、お客様への提案を行ってまいります。

* 環境配慮型製品

地球温暖化防止、化学物質による汚染防止、環境リスク低減、資源循環、自然エネルギー・非枯渇資源の活用など地球環境の保全と社会の持続的発展に貢献する一連の製品群です。

- 粘着剤：シロップタイプ(無溶剤型)、エマルジョンタイプ(水系)、ノントルエンタイプ(トルエン不使用)、高不揮発分タイプ(溶剤減量型)
- 特殊機能材：アクトフロー®(無溶剤型樹脂改質剤)、トルエンフリーサーモラック(トルエン不使用)
- 加工製品：JETテープ®(無溶剤型粘着剤使用の粘着テープ)
- 微粉体：MPシリーズ、MZシリーズ
- 装置システム：熱媒ヒーター、VOC回収装置

環境配慮型製品売上高比率



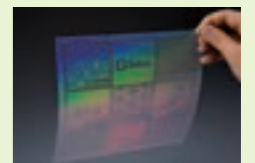
将来に向けた取り組み

ナノインプリント用モールド「フレフィーモ®」

フレフィーモ®はプラスチックやフィルムの上にナノレベルの凹凸模様をつける機能を持っています。テレビやモバイル端末のディスプレイの反射防止フィルムには、蛾の眼の表面に似たモスアイ構造と呼ばれる無数の突起をもつものがあります。この突起により、入射した光は屈折しながら透過するため反射することはありません。照明の光源パッケージ内側にフレフィーモ®と同様の加工をすれば、光を無駄なく外側に送り出せます。今、注目されているエネルギー有効利用の技術です。



新規事業部
細江 祐太

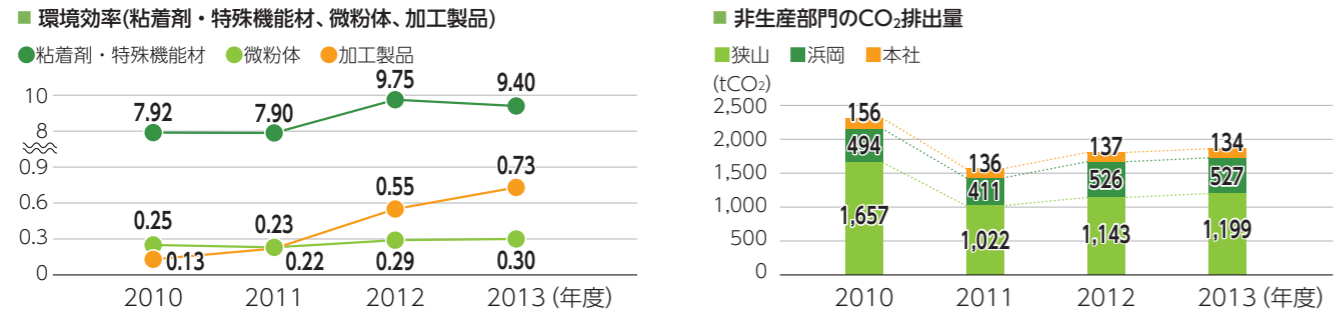


地球温暖化防止

設備の運用管理や更新、再生可能エネルギーの導入等で温暖化防止活動を推進しています。第三次環境中期計画では、評価指標として、生産部門はアイテム毎の環境効率（生産量／生産に関わるCO₂排出量）で、直接生産に関わらない非生産部門はCO₂排出量で評価しています。

● 環境効率とCO₂排出量

粘着剤・特殊機能材の環境効率は昨年度よりやや低下、微粉体、加工製品は向上しました。粘着剤・特殊機能材は生産量減少の影響で、微粉体、加工製品は低環境負荷製品の比率増加によります。特に加工製品は触媒燃焼式脱臭装置のCO₂削減効果で0.55から0.73になっています。非生産部門のCO₂排出量は1,806tから1,860tと微増でした。



2013年度の取り組み事例

■ 微粉体生産工場の遮熱塗装 (狭山サイト)



微粉体部
粉体製造G部
佐久間 秀一

微粉体製造工場の屋根を遮熱断熱塗料で塗装しました。夏場の強い日射の影響が和らぎ、作業環境の改善につながっています。空調用の電気使用量の削減にもつながっています。

■ 粘着剤生産工場のエアコンプレッサー省エネと浸水対策 (浜岡サイト)



綜研テクニクス(株)
技術統括部
設備技術管理部
浜岡設備管理G
村松 宏敏

工場ごとに稼働していたコンプレッサーを一元化して省エネルギーとメンテナンス費用削減を図りました。いざという時の浸水対策も考え、工場の3階に設置しています。

■ 電動フォークリフトの導入 (浜岡サイト)



樹脂生産部
浜岡工場 製造3G
笹野井 祐平

構内で重量物の運搬に活躍するフォークリフトをエンジン車からバッテリー車に更新し、運転時のCO₂排出量削減を図っています。作業中の騒音低減にも貢献しています。

■ 事務棟の太陽光発電 (浜岡サイト)



総務人事部
浜岡総務G
池田 大輔

節電(省エネルギー)から創エネ(エネルギー創出)を目指し、2013年1月に太陽光パネルを設置しました。2013年度の発電量は稼働後2か月での予測値に近い53,236kWhとなりました。

化学物質による汚染防止および環境リスクの低減

周辺環境に配慮しながら安全な事業活動を継続するために、関連法規制等の順守に加え、取り扱う化学物質を適切に取り扱うことで環境中への放出を防止しています。また、事業活動に伴い発生する騒音、振動を抑制するための対策を実施し、環境リスクの低減を図っています。

● PRTR対象物質*

2013年度に取り扱ったPRTR対象物質は、排出量12t(前年度12t)、移動量68t(同65t)となりました。排出量、移動量とも前年度とほぼ同レベルで推移しています。

* PRTR対象物質
PRTR制度(化学物質排出移動量届出制度)に基づき、排出量、移動量の届出が義務付けられた化学物質のことをいいます。

● 製品SDS(安全データシート)の提供

製品をお客様に安全にご使用いただくため、全製品のSDSを提供しています。今後の規制強化に伴う法令改正、新たな危険・有害性情報を迅速に反映できるようにSDS管理システムを導入して運用しています。

● 騒音・振動対策

法的基準値内の維持継続のため、騒音発生源の緩和・遮蔽、騒音発生作業の見直し、工事実施前の環境影響評価による予防措置を実施しています。2013年度は狭山サイト微粉体生産工場の騒音対策等を実施しました。

● VOC(揮発性有機化合物)臭気対策

有機溶剤による臭気漏洩、大気汚染を防ぐため、VOC発生源の遮断、脱臭設備の増強などの対策を進めています。今期は狭山サイト加工製品工場の触媒燃焼式脱臭装置の運転条件最適化による臭気の低減、浜岡サイト地下タンク原料の配管合理化による曝露防止を行いました。

2013年度の取り組み事例

■ 微粉体生産工場騒音対策 (狭山サイト)



微粉体部
粉体製造G
泉山 義和

住宅に隣接する狭山サイトでは騒音対策が特に重要です。このため、エアコンプレッサー吸気口に防音ルーバーを、本体周囲に遮音パネルを設置しました。これらは狭山サイト自主管理基準の順守に向けた取り組みの一つです。

■ 地下タンク原料の配管合理化 (浜岡サイト)



樹脂生産部
生産管理G
浜岡業務T
鈴木 弘也

販売量が増えると大型プラントに移管しますが、元々大型プラント生産の想定がない品番では必要な原料移送ラインがなく、やむを得ずドラム缶原料を使用していました。ラインを新設し、曝露リスクを低減できました。

■ 触媒燃焼式脱臭装置 (狭山サイト)



加工製品部
加工製品生産G
大門 庸介

加工製品製造時の有機溶剤蒸気の臭気を抑えるため、2011年度から触媒燃焼式脱臭装置が稼働しています。運転条件最適化で臭気低減が図れ、運転に必要な燃料も従来装置の1/10に削減されました。

■ 使用済ドラム缶回収ルート最適化 (浜岡サイト)



樹脂生産部
浜岡工場
物流G 配送T
菊池 晋一

ドラム缶荷姿製品の約半分では、ビニール内袋を装着して製品を充填し、お客様の使用後にドラム缶を回収して再利用します。回収ルートのムダに着目し、総運送距離を30%削減しました。

サイトデータ

狭山サイト

樹脂生産部次長
(狭山サイト
環境実行委員長)
関口 勉



- 事業所設置 1961年
- 敷地面積 28,795㎡
- 所在地 埼玉県狭山市広瀬東1丁目13番1号
- 主な事業内容 粘着剤、微粉体、特殊機能材、加工製品の開発、製造およびプラント用装置の開発

狭山サイトは環境配慮型製品を始めたケミカルズ製品の開発・製造拠点です。サイトの立地は工業地域ですが、周囲に住宅が立ち並び、騒音、臭気の発生防止等、周辺環境に配慮した事業活動が要求されています。

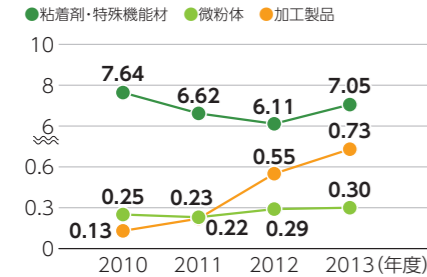


狭山サイト全景

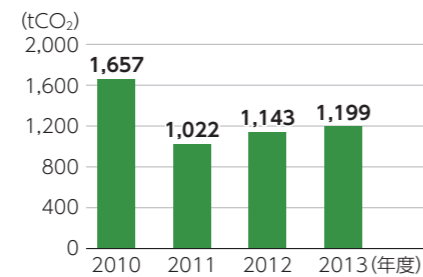
2013年度は、夜間の騒音低減を目的に、騒音測定器を導入して騒音発生源機器を特定し、周囲に遮音パネルを設置することで改善を図りました。臭気対策では、2011年度から稼働した触媒燃焼式脱臭装置の運転条件最適化で従来の直接燃焼装置に比べ臭気が低減し、さらに触媒の再生使用方法を確立して使用済触媒廃棄量を削減しました。

これからも「地域社会に愛される事業所」を目指した事業活動を継続します。

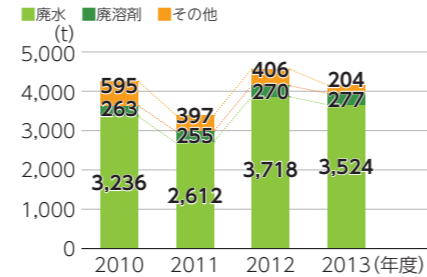
狭山サイト環境効率



狭山サイト非生産部門のCO₂排出量



狭山サイト廃棄物量



浜岡サイト

樹脂生産部 浜岡工場長
(浜岡サイト
環境実行委員長)
近藤 秀明



- 事業所設置 1992年
- 敷地面積 46,869㎡
- 所在地 静岡県御前崎市池新田8665番1号
- 主な事業内容 粘着剤、特殊機能材の製造および微粉体中間体の製造

浜岡サイトは、綜研化学グループ最大の量産工場・物流拠点です。高品質な粘着剤・特殊機能材製品を生産するとともに省資源、省エネルギーなどの環境負荷を減らす活動に取り組んでいます。

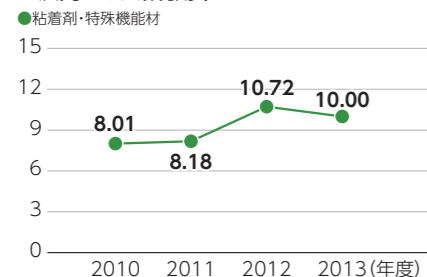


浜岡サイト全景

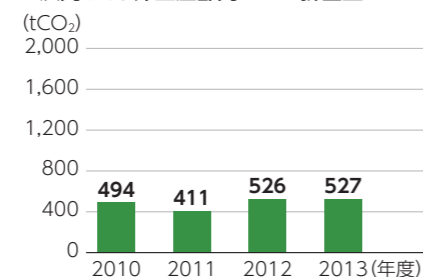
2013年度の活動例では、お客様の使用後に回収して再使用するドラム缶容器回収ルート最適化を図り、運送距離を30%削減しました。ちょっとしたパズル感覚での改善ですが、他にも一人ひとりが知恵を出し合って日々努力しています。

最近のトレンドは自転車通勤です。もともと通勤時の公共交通機関の利用が難しい浜岡サイトでは、自家用車通勤が多数派ですが、天気の良い日は自転車通勤者が増えるので、駐輪場が混雑します。健康管理にも役立つ小さなCO₂削減活動です。

浜岡サイト環境効率



浜岡サイト非生産部門のCO₂排出量



浜岡サイト廃棄物量



第三者意見

綜研化学グループ「2014 社会・環境報告書」を読んで



公益社団法人 化学工学会
産学官連携センター SCE-Net
長安 敏夫

化学会社に33年間勤務し、プロセス開発、管理・改善などに努めた。その後ISOコンサルタント会社にて3年間勤務した後、個人業として企業の環境マネジメント支援を継続中。

アジアの生産拠点紹介の意気込み

2014年版はトップメッセージ、グループの拠点紹介に続く記事が例年と違って4頁に亘るアジア生産拠点の記事であることに新鮮味を感じます。アジアの6拠点の代表として綜研化学（蘇州）が紹介され、「日本的な企業文化の創出」、「蘇州工業園区の模範工場」として地域安全への貢献、「緑豊かな化学工場」づくり、惠民富民キャンペーンへの協力を通じての社会貢献などの記述から、単に生産業務を行うだけでなく、周辺社会への環境貢献の意欲が伺えます。今後の社会・環境報告書においてアジア拠点で働く日本人或いは現地の人による社会環境改革のリーダー的な貢献の成果が伝えられることを期待いたします。

従業員への思いやり、地域社会への思い入れ

「従業員の心と身体の健康を支える体制作り」「仕事と家庭生活の充実を支える制度」に書かれた具体的な実施内容（写真も含めて）は、他社にとっても大いに参考になる見本と言えるものです。

地域貢献活動も綜研化学グループの大きい特徴です。今回の報告期間に実施されなかった近隣小学校での出前理科教室も今後は是非継続され、昨年の第三者意見に記述された、「教える側と教えられる側双方のレベルアップ効果」がより具体的になることを期待します。インターンシップ生の受け入れはインターンシップ生自身にとって貴重な経験となり素晴らしいことです。今後は更にフォローアップ（例えばインターンシップ生から終了後も意見を寄せてもらうなど）を通じて綜研化学グループにとっても役立つものにされては如何でしょうか。

環境中期計画と環境マネジメントについて

環境中期計画では複数の事業所をまとめて統一した目標がうまく設定されています。地球温暖化防止のために各製品分野に設定した「環境効率向上」は着実に目標が達成され、「化学物質による汚染防止及び環境リスクの低減」も計画した実施項目を着実に実現しておられます。これらは各サイトの実施例が示され、実行度が実感できます。各実施事項の目標達成への寄与度を定量的に評価されるとより確実にPDCA（計画・実行・チェック・改善）サイクルを回すことができます。一方で環境配慮型製品売上高比率向上の推進と非生産部門のCO₂排出量抑制は連続未達成です。目標未達成項目については、PDCAサイクルを着実に回すために、改善手段の一層の工夫に加えて、努力してできることとその効果を見極めて、全員で協力でき且つやりがいのある目標設定に向けての見直しをお勧めいたします。

環境苦情、環境不適合について、事実に対して真摯に向き合われていることは他社への模範ともいえる事です。対策を実施してその効果も確認するというPDCAによる継続的改善の取り組みが強化されたと評価いたします。

報告書全体を通じて

毎年掲載されています製品或いは生産技術の紹介が今年度は見られないのは少し寂しい気もしますが、次回を楽しみにします。環境配慮型製品のページで紹介された「ナノインプリント」は応用範囲も広く今後は楽しみです。綜研化学グループの得意製品として伸びていくこと今後も新たな環境配慮型製品を生み出されることを期待いたします。

報告書全体を通じて、製品を通しての社会貢献、環境改善、株主への貢献、地域貢献、従業員の幸せを十分に配慮された会社であることが伺えます。

綜研化学のHPを是非ご覧下さい。

当社のHPにて、「社会・環境報告書」のバックナンバーをご覧いただけます。
また、コーポレート・ガバナンスにおける当社の取組みもHPにて詳細を確認いただけます。

<http://www.soken-ce.co.jp/>

2014年11月
リニューアル予定

